

## 「広島・長崎被爆 70 周年 核のない未来を！ 世界核被害者フォーラム」 私家版速記録

日本基督教団仙台北三番丁教会担任教師  
仙台白百合女子大学カトリック研究所客金研究員  
東北ヘルプ事務局長 川上直哉（神学博士）

本稿は 2015 年 11 月 21～23 日に広島国際会議場「ヒマワリ」において開催された会議の私家版速記録である。  
本稿は、筆者が東北ヘルプの業務としてこのフォーラムに参加し報告のために作成したものである。従って、本稿の文責はすべて筆者にある。  
本稿作成においては、パソコンの充電切れ、筆者の体調不良、筆者自身の発言のための準備等、さまざまな外部的な影響を受けている。その  
限界内で精確を期したが、完全ではない。正確で完全な報告については、「世界核被害者フォーラム実行委員会」に問い合わせたい。  
尚、本稿の著作権は、これを全面的に放棄する。

2015 年 11 月 25 日 川上直哉 記

参照

### [世界核被害者フォーラムが閉幕 | 中国新聞アルファ](#)

<https://www.chugoku-np.co.jp/local/news/article.php?...id...0...>

1 日前・広島国際会議場（広島市中区）で開かれていた「世界核被害者フォーラム」は 23 日、議論を総括した「広島宣言」とともに、放射線被害を強いられずに生きる権利の保障などを明記した「世界核被害者の権利憲章要綱草案」を採択し、3 日間の ...

### [核被害者フォーラム始まる 広島 | 中国新聞アルファ](#)

[www.chugoku-np.co.jp](http://www.chugoku-np.co.jp) › 地域・写真ニュース › ニュース

3 日前・世界のヒバクシャの訴えを発信し、核被害を絶つ道筋を考える「世界核被害者フォーラム」が 21 日、広島市中区の広島国際会議場で始まった。広島、長崎の反核市民団体が主導し、被爆 70 年に合わせて 3 日間の日程で企画。初日は核実験や ...

### [核被害者フォーラムの全容固まる | 中国新聞アルファ](#)

[www.chugoku-np.co.jp](http://www.chugoku-np.co.jp) › 地域・写真ニュース › ニュース

2015/11/10・広島、長崎の市民団体が 21～23 日、広島市中区の広島国際会議場で開く「世界核被害者フォーラム」の全容が固まった。核実験や原発事故の被害者、専門家たち 12 カ国約 80 人がパネル討議などを通じて被害を断ち切る道筋を探る。一般の ...

### [核の健康被害を報告 広島で世界フォーラム | 中国新聞アルファ](#)

[www.chugoku-np.co.jp](http://www.chugoku-np.co.jp) › 生活情報 › 医療・健康

19 時間前・核兵器の開発・製造や原発事故などあらゆる過程で生まれるヒバクシャの問題を考える「世界核被害者フォーラム」は 22 日、広島市中区の広島国際会議場で 2 日目の会合を開いた。約 250 人が参加。放射線の人体影響に詳しい医師や研究 ...

### [放射線被害の人権憲章採択、広島 核被害者フォーラム | 中国 ...](#)

[www.chugoku-np.co.jp](http://www.chugoku-np.co.jp) › ニュース › 社会

2 日前・広島・長崎の原爆や核実験、原発事故など「核」をめぐる被害者と研究者が集い、核廃絶を目指して広島市で開いた国際フォーラムが 23 日、閉会した。「世界放射線被害者人権憲章」が採択され、核被害の防護や再建を求める権利を宣言した。

### [広島で核被害の国際フォーラム「生存脅かし続けて ... - 中国新聞](#)

[www.chugoku-np.co.jp](http://www.chugoku-np.co.jp) › ニュース › 社会

4 日前・核兵器や核実験、原発事故、ウラン採掘など「核」の被害者や専門家が、核なき未来の可能性を議論する国際フォーラムが 21 日、広島市中区の広島国際会議場で開幕。同市の平岡敬元市長は「広島、長崎に投下された原爆以来、核は私たち ...

【基調報告】 ティルマンラフ (ICAN 共同代表・医師・オーストラリア)

核燃料サイクルによって、私たちは皆脅威に曝されている。  
ナバホのウラン採掘現場では2倍の放射線が確認されている。  
オーストラリアで採掘されたウランが福島第一で事故を起こしたことは痛恨事である。  
これまでに、15回、世界中でメルトダウンに相当する事故が起こっている。

小児がんの調査、CT検査、原発労働者の調査で、低線量での影響があることがわかっている。癌のリスクは、最初の10年で24パーセント増。その後16パーセント増。新しい癌はその子供が成長した後も続く。CTによる発生の確率は70%増。4倍程度の低線量被ばく者の寿命調査を見ると、CTスキャンによる癌は3倍から9倍となる。

ドイツで原発に近い(50キロまで)ところでの調査が出ている。数十万人の原発労働者で上限以下の現場にいた人でも、1ミリグレイ年で、癌の増加がみられる。

低線量のリスクは、高線量のリスクの半分、は、嘘である。

ほとんどすべての原発事故では、これと言って大きな線量被ばくの影響はない、と言われているけれど、調査はそれを裏切っている。放射線の汚染レベルとの相関は、スリーマイルで明らかになった。

チェルノブイリ事故を受けた1991年の報告でも「大丈夫だ」と言われた。でも甲状腺癌が出ている。数十万の白血病が、チェルノブイリで出た。ウクライナのリブネ州で実証されているデータがある。ラドンガスについても、発癌リスクは2倍になっている。肺がんの関係がみられる。被曝者の間では、がん以外の慢性疾患が知られている。循環器系が多い。低線量であっても、発生している。癌による死亡リスクだけでも2倍となっている。

地球は、さまざまな生物と共有している。チェルノブイリの後の動物を調べたティム・ムソーの研究は有益。植物、動物、微生物に悪影響が見られる。彼の調査した限りでは、放射性による影響は、線量の如何を問わず、見られている。最先端の検査手法を使って、バッタの異常、鳥の無精子、鳥の腫瘍・発達異常、蛍の異常が確認されている。ネズミなどの白内障・小脳の異常が見られる。知能の低下もネズミと鳥で確認されている。木は変形している。それで火事が発生しやすくなる。そして、汚染が拡散するのだ。鳥の母集団が減っている。3分の2も。鳥の種も半分になっている。

福島でも、鳥の数が減っている。種の数が減っている。

人間だけ特別、という考えは、科学的な根拠のないこと。非常に危険だ。

国際的な取り組みが少ない。正義がない。被害者への補償が足りない。除染の努力が少ない。

マーシャル諸島への国連の報告書や、2013年のグローバー報告書、は注目に値する。

NPT締結国の権利としての原子力保有は、無差別な放射線被害がいつでも起こることを示す。核戦争の危険を高めている。それは核物質の拡散の悲劇をもたらすものだ。生物圏への安全が脅かされている。人権問題も。健康を守るためのエネルギー政策がとられない。

SDGに2030年への目標として再生可能エネルギーが盛り込まれた。これは歓迎すべき新しい動きだ。

\*\*\*\*\*

【核サイクル被害現場からの報告】

ペトーチ・ギルバート (米国)

ニューメキシコの北西部から来た。グランツ鉱山のことを話す。これはかつての世界のウラン採掘の「首都」であった。世界最大の露天掘りのウラン鉱山があった場所。現在は5カ所の精錬所が終わっている。しかし生産も清算もしていない。除染はしていない。地下水の汚染も続いている。

ヘイスタック山の鉱山を発見したのは、ナバホ人。鉱山の残りかすがぼた山のように見える。そのそばにコミュニティがある。

そうしたものは、ニューメキシコのチャーチロックにもある。ナバホのコミュニティはその近くに。米国史上最大のウランの事故も、そこで起こった。ぼた山が崩れ、プレトリコ川からアリゾナへ、流れて行った。

廃坑となった鉱山のそばでは健康被害が起こった。ミランという場所では、精錬所の近くで、許容限度の18倍となっている。アルバカーキ市には「死の地図」が載ったことがある。ある地域で特にたくさんの死者が出たのだ。

何十年もウラン生産が行われたが、健康に関する調査を行ったことがない。自己申告に基づくものがあるだけだ。骨の癌、肺がんなど。腎臓病、心臓病、糖尿病など。免疫の不全など。行政からは、お金がないので、調査ができない、となる。

グラント鉱区にはテイラー山がある。アコマの言葉では、「山頂が白い山」。そこは、聖地である。伝統文化財としても指定されている。ロカホンダマイン社が、伝統文化財にまたがる地域を鉱山開発しようとしている。日本の住友も、囃んでいる。米国政府が環境調査をしており、2016年には決定が出る。ここは、サンマテオクリークの水源である。それが汚染されている。水は大切な資源である。年間平均375ミリ未満しか雨が降らない。聖なる水源、母なる泉が、この山にある。現地の人々は反対行動を続けている。

「安全な環境のための同盟」が報告書を国連に提出している。先住民は、自分たちの聖なる土地を守ろうとしている。汚染に反対している。アコマ・プエブロ人は、最も古いネイティブ。偉大なる精霊によって土地を与えられた、それを守らなければならないとしている。

母なる地球を、私たちは守らなければならない。

\*\*\*\*\*

アシシ・ビルリ (ウラン鉱山・放射能反対同盟・インド)

西インドの東にある村で育った。1950年以降、ウランの探査が始まった。その狂気は続いている。誰も責任を取らないような死が、そこに起こっている。住民は、この問題の原因について気づかなかった。あらゆる方法を使って、私たちは、対応した。研究もした。裁判もした。でも何起きない。全ては失敗に終わっている。どれほどの被害になっているかもわからない。

インドの科学者は、月や火星を探査するが、私たちの地域を調査しない。原子力省は、インドを原子力供給国にしようとしている。国内には7カ所のウラン鉱山がある。政治家はこの問題を議会で取り上げない。私たちは20年闘い続けている。終わらないと思う。

UCIL という会社がある。尾鉱のための新しい土地買収に失敗した。それで、古い尾鉱を伸長し用としている。その結果、私たちの聖地が奪われようとしている。フクシマを受けて、未来に向けて共に働きたい。

時間は、たくさんあるとは思えない。与えられた時間内で終わらなければ、私たちは終焉を迎えるだろう。

私はこれ以上辛い思いをする人が出ないことを願っている。一般的な人でも、この土地の出身者は、結婚が難しくなっている。出産も困難になっている。一所に立ち上がって、闘う必要がある。いっしょに、この問題が小さくないことを示したい。

ある会社が動き出すと、止まらない。抗議をしても阻止できない。だから、始まる前に、止めなければ。

政府は、住宅街から20キロ離れたところで、原発を作ろうとしていた。これは狂気だ。

住民は驚き、土地を譲らなかった。それで、計画は止まった。

そうして今、数千人が抗議している。始まる前に、止めなければならない。

\*\*\*\*\*

**【質疑応答】**

カリーナ (オーストラリア)

オーストラリアでも、同じ問題が起こっています。核燃サイクルの調査が始まった。2月に始まった。先住民として、南オーストラリアとして、拒否の声明を持ってきた。

川崎 (日本)

日印原子力協定について。今後、どういう影響があるだろうか。

アシシ・ビルリ (インド)

福島事故を受けて、日本には手本を示してほしい。原子炉の再稼働を見て、インドの民にジレンマを与えている。日本人が、原子炉を閉鎖してくれれば、他の国がついて行くのに、と聞こえてくる。再稼働に、私たちは、マイナスの影響を受けている。

振津 (日本)

ペトーチさんへ。米国のウラン鉱山開発に、住友商事が絡んでいるという。日本人へのアピールはないか。この会議の後、住友商事の本社へ申し入れをする。「Four Corners to Fukushima」というスローガンについても説明してほしい。

ペトーチ (米国)

先住民は、ウラン採掘精錬に反対している。これは私たちの所のニューメキシコの四つの場所に集中している。それで「非核地帯」とする運動が始まった。一人で、止めることはできない。連帯が必要だ。多国籍企業が耳を傾けるまで、事柄は進まない。そこに、住友が40パーセント出資して入ってきている。カナダの会社も入ってきている。住友に行く。そこで、自分としては、「被曝者になりたくない」と言いたい。それを聞き改善する能力が、住友にあるはずなのだから。

きはら (広島)

30年前、米国ウラン鉱山に行った。そこで原住民にお会いした。そこで反対運動を続けている。  
米国でも豪州でも、白人との連携が行われているのか、と質問したい。孤立していないか。

ペトーチ (米国)

全ての人々が、この問題に関与すべきだと思う。この地球において、お互いに助け合うべきだ。強力な意思決定者が現れるまで、政府が原発を放棄しない限り、資本主義者が搾取を続ける。NPTの会議の際、NYに行った。そこには、何千人もの人が来ていた。みんな一緒になって戦っていた。そうしたことが必要だ。そしてデータが必要だ。教育が必要だ。私の村は、小さな村で、だれでも、仕事が欲しい。健康影響が伝わらない限り、新しい動きは産まれないだろう。

森瀧 (日本)

アシッシさんへ。「放射能反対同盟」は、ご父君が始められたもの。その展望を聞かせてほしい。

アシッシ (インド)

2002年、日本とインドの学生と映画監督とが、広島に自分を呼んでくれた。その時、放射能は大問題だと知った。チェルノブイリもある。核兵器のことも。新しく学んだことを踏まえて、故郷を見直した。14歳ころだったけれど、学校での活動を続けた。抗議運動は、何の慰めにもならない。その中で、写真を撮り始めた。多くの人に頼まれるようになったからだ。

フォトジャーナリストが、日本からも、豪州からも、来る。そして私は刺激を受けている。

若い人たちに、私の写真を見てほしい。教育を受けた人々が、私の写真を通じて、運動に関心を持ってくれれば、政治も変わるかもしれない。

実際には、地元でも分断されたままだ。開発側の人もいるわけで。抗議に加わらない人もいる。そうした中で、尾鉱の拡張に進もうとしている。

祈りの場所が、脅かされている。これは深刻な問題だ。

山根 (日本)

被爆者として発言する。各地に、平和祈念館がたくさんある。アシッシさんの写真を、あちこちで展示してほしい。

アルアリ (イラク)

ギルバートさんへ。米国のスマートボム（小型核兵器）について、どんな運動があるか。

ペトーチ・ギルバート (米国)

傲慢な米国の態度は助長されている。イランとの核合意ができた。これで、ロスアラモスの科学者が助かると言っている。同じ科学者たちが、一方で、スマートボムを作ろうとしている。ニューメキシコの人々は、それに関心を持っていない。

核主義というべきものがあり、国立の研究所が二つある。国が後押しをする科学者がいる。

先住民だけでは、どうにもならない。これは、皆の課題だ。

\*\*\*\*\*

**【核実験】**

カリーナ・レスター (豪州)

私の父 ヤミー・レスターについて話したい。

1953年南豪州での英国による核実験が契機となった、核廃棄物処理場設置への反対運動について話したい。原子力業界への私たちの活動について話したい。

1953年の核実験で、たくさんの人々が死んだ。湿疹、下痢、嘔吐、目が痛む。

1957年に、父も失明した。それ以来、運動は続いている。

彼は核実験がいかなる影響を与えてきたかを語っている。ラジオでのインタビューのことが思い出される。タイタン氏というインタビューア

が「先住民に対する説明をした」と明言した。英語を話せない人々に、英語でだけ、説明をしたのが、政府の「説明」だった。

父はそれに反論した。現地の多くの人々は英語を話せなかったのだ。英語話者には、説明があったのだろうが、そうでない多くの人々は、何も知らされなかった。

実験後、人々は、散らされた。言語も失われていった。文化も。核実験がどれほど人々を脅かしたか。それを、父は語っている。

実験の跡地には、記念碑が置かれている。

1998年、オーストラリア政府は、南豪州に核処理場を作ると発表した。それで、イラルワンティ・キャンペーンと題して、伝統的な文化の復興を始めた。そして、自分たちの体験談を話し始めた。「なぜ、廃棄物を押し付けるか」と。「奥地において、忘れるためではないか」と。自分たちにとっては、その奥地は大切な場所。私たちは活動を続け、「talking straight out」という本を出した。メルボルンの女性たちが、この運動を支えた。

政府は、文化の復興は評価しても、原子力への問題提起は無視した。そして、核燃料サイクルに対する王立委員会が立ち上げられる。自分たちが深くかかわっている場所の問題である。この問題に、すべての人が参加できるようにすべきだ。

\*\*\*\*\*

【質疑応答】

安田（日本）

第五福竜丸被ばくの立場で発言する。豪州政府が英国に核実験の場所を提供している。そのあたりの関係はどうなっているか。環境の放射能汚染を調べているとのことだが、住民の被ばくを、政府が認めているかどうか。

カリナ

父は、英国の王立委員会で証言をした。実験場では狩猟の生活をしていたことを明らかにして、基金を作って補償が行われることになった。

90年代には除染が行われた。そして依然、健康と貧困の問題が残っている。

\*\*\*\*\*

アニワル・トフティ（中国・ウイグル）

中国の核実験の話をしよう。

中学生として通学しているとき、核実験が行われた。その時の、1973年のウルムチの写真がある。何も見えない程、埃が空から降ってきたことがわかる。学校に行き、先生に聞くと、「これは、土星の嵐だ」と言われた。私は信じた。

実際には、公式発表よりも、西側の、住居に近いところで実験は行われた。

1997年、500床だった病院が、2008年、2000床になった。河南省では、500が800になっただけだったのに。

癌の状況について報告する。実験場の周りで、不思議な状況が生まれている。肺がんが非常に多い。高田純 北海道大教授が調査し本を出している。19万人、核実験で死んだと、推定している。

58年来の3年間で、中国では「飢餓」で4000万人が死んでいる、とされている。

雨の降らないこの地域では、核爆発の毎に、粒子が遠くへ飛ぶ。それが肺がん多発の原因だろう。

近年、台湾で、原発計画への反対デモがある。そのリーフレットで、核廃棄物を中国へ送れと主張されていることを知った。中国政府は、台湾政府からお金をもらって、廃棄物を受け入れていると分かった。

中国は、鉄のカーテンの中に隠れている。民には補償せず、兵にだけ補償を行っている。

ウイグル人として言いたい。94年、出身地の結婚式に出た。同席した羊飼いかから、「アッラーを見た」と聞いた。200匹の羊を飼っていたところ、この地域の羊は全部私が飼う、という人が現れ、その後、光を天に見た、という。それは「アラーだ」と思った。そしてその人は、気づいたら、300キロ先の軍の病院にいた。右側は、大やけど。左は無傷。この人は、実験の証人となったわけだ。

90年代に、パキスタンを支援して、中国は核実験をさせた。私たちは実験台になったわけだ。

\*\*\*\*\*

【質疑応答】

川崎（日本）

情報公開が遅れている中国で、トフティさんは、こうした問題を調査して告発してこられた。どうやって、情報を得たか。今後、私たちは、どうしたら情報にアクセスできるか。

嘉指 (日本)

1999年に英国に亡命されたという。英国を基盤とするのはなぜか。中国で働いていた病院との関係は今もあるか。

トフティ

中国の情報は不透明だ。それでも情報を取って、意識的に比較すれば、問題を発掘できる。たとえば病院の規模は、ネットに出ている。地元の人と比較すれば、答えは出せる。CIAの機密解除の文書もネットにある。中国軍についての文書も出ている。そうして、ビデオ作品として、**Death on Silk Road** を作り、インターネットに公開した。

英国でも中国も、私の調査に協力はしない。助成金を得て調査をしようとしても、人権財団からすら、却下される。200以上の団体から却下されている。訴訟を恐れているのだろう。

若い人を励ますためにも、情報を得たいと思っている。

\*\*\*\*\*

メアリ・ディクソン (米国・「風下住人」)

2008年に広島に来た。多くの被ばく者に出会った。胸をつぶす談話に出会った。

その時、私も、被曝者であると紹介された。1992年までに、935の原爆実験を、ネバダで行った。地下実験となった後も、放射性物質の密封には失敗し、多くは外へ漏れ出していた。そうした原子力雲の下で生きてきた。私たちを冷戦から守るために、ということで、リチャード・ミラーの *Under the cloud: the decades of nuclear testing* にある通りの世界に生きていた。

1953年に、サイモンという実験が、100年ぶりの嵐と重なり、NYを汚染した。その後、ロスでも、600万人が放射線降下物に曝されている。

体は、30歳を前にして、甲状腺の癌となった。悪性と言われ、手術をし、放射線治療を受けた。甲状腺を切り取った後、放射性物質を飲んで、自分自身が放射性物質となった。

政府は「危険はない」と何度も行った。ガイガーカウンターの警報も気にするなど。爆発を家族の娯楽として鑑賞しろと。危険を知らせるサイレンもなかった。

病気になってから、周囲の病者のリストを作った。脳腫瘍で10歳で亡くなった幼友達。その兄弟も亡くなって行った。「40まで生きられたことは幸運」と友人が言っていた。46歳で3人の子供を残して死んだ友人。それは特別なことではなかった。そうしたリストは、ずっと長くなっていく。

ジャーナリストとして、たくさんの証言を得ている。夫を亡くした後、骨肉腫で息子の足を失った母。そうした話は、数字や統計ではない。政府は、放射性降下物を知っていながら、嘘をついた。そして政府は危険をもたらした。

核実験の倫理とは何か。刀の試し切りで、辻斬りを行う、という話がある。通行人は、罪もない人々。私たちが同じだ。冷戦は、死者をもたらした。放射能の力を示す生きる証拠が、私たちが。立正の責任は、いつも、犠牲者に負わされる。

ある予測では、80万人がなくなった、と言われる。いのちを代償にして、核実験が行われたのだ。それは、誰にも知られていない。

たくさん、死んだ。自分の体も、切られた。妹は、苦しみながら死んだ。このストーリーを受け継ぐのは誰か。私たちは、忘れてはいけない。共に立ち上がらねばならない。

どの国でも、核実験を行うべきではない。人間を使い捨てにしてはいけない。犠牲者である私たちが示すべきことは、私たちが「風下の人間」だということだ。

\*\*\*\*\*

竹峰 (日本・マーシャル)

ミクロネシアで、67回の核実験が行われた。ヒロシマ型の7千発に相当する実験となった。来年、70年となる。

「グローバルヒバクシャ」という概念を使っている。地球規模での核被害を可視化するための概念である。

「見えない核被害」がいる。「悲しみは心の中に」「土地は奪われた」「文化は失われた」と語る被害者の声がある。

「ERUB (破壊)」という現地の自助団体がある。目につきにくい破壊がそこにある。

「不可視化された核被害」ということを考えなければならない。「福島でも繰り返される核の文化」(トニー・デブルム外相)という言葉もある。

る。

1954年3月1日「ブラボー実験」が行われた。爆発が予想を超え、風が予想外に吹いたと、米国は言った。公文書によると、これは嘘だった。住民の被ばくは、人体実験だった。遺伝調査を行う上で理想的な状況を作るために、被ばくしたロンゲラップの地に民は戻される。島の人は「何も知らずに死んでゆく」。

米国が1億5千万ドルの補償金を払って、この問題は完全決着とされた。今、グアムでも、補償を求める声がある。

\*\*\*\*\*

【質疑応答】

第五福竜丸の立場から

メアリさんに質問したい。

風下地域の被ばく者と会った時のことを思い出す。長い時間をかけて補償法を勝ち取った時、その人々への嫌がらせがあったという。それから20年。どんな状況だろうか。

第五福竜丸以外の乗組員についていえば、「被曝しているかどうかわからない」と、皆が口を閉ざしていた。今、被ばく測定の技術が向上して、権利獲得のための動きが始まったところである。

メアリ

政府によって、実に非人道的な補償がなされた。ほとんどの人が補償から外された。被害者は少ないという間違えた印象を与える結果になった。政治的な線引きは、現実とかい離している。

ロビーをしても、「お金が足りない」と言われる。5万ドルだけ、支払われた。そのためには、自分で被害を立証しなければならなかった。ほとんどの風下被害者は、認められずに死んでゆく。爆心地近くに住む人も、自分が被害者だと知らない人も。気が引ける、という人もいる。「遠慮しないのか」と責める人もいる。

ブッシュ Jr.政権の下で、ネバダで核実験を再開しようとした。しかし、反対運動が起こって中止となった。これは新しいことだった。教育の成果だろう。

今度の大統領選挙で、どうなるかはわからない。USAの人は、先週のことしか覚えていない、と、ある人が言っていた。その通りかもしれない。

ドイツから

トフティさんへ。中国政府には、責任という感覚はないのか。漢民族の人数がが新疆に増えている。そのことで、何か変化はないか。

カリナさんへ。インドは、豪州と原子力協定を結んだ。そのことをどう思っているか。

トフティ

1996年に、核実験は終わった。共産党は、漢民族であるかどうかにか、あまり興味がないようだ。政策は変わらないだろう。中国政府は、権力を安定させること、そして経済成長をだけ、考えている。あとは関係ないだろう。

カリナ

豪州政府は6つの廃棄物処理場を発表した。これはアボリジニの伝統的土地に計画されたものだった。このように核廃棄物処理上を探しているわけだ。私たちは、国内の問題を解くために、インドとも連帯をしたいと思っている。

\*\*\*\*\*

【原発事故・原発労働】

ヴェリキン (チェルノブイリ)

これからお話するのは、チェルノブイリではなく、全ての人々の社会保障の問題だ。

現時点では、核エネルギーを拒否できない。原子力潜水艦も、航行している。核保有国は増えている。廃棄物の問題も深刻化している。

従って、私たちは次のことに留意すべきだ。

- 第一：代替エネルギー源の積極的開発。
- 第二：全核廃絶への参加。
- 第三：劣化ウランの生産と利用の禁止
- 第四：核廃棄物の安全性の監視
- 第五：各被害者の法的保護

不十分であっても、国際条約の規定を活用するべきだ。核被害＝死亡・身体的損傷・財産損失・複合的な物質的な損害など、できることはある。

基準値以上の放射線照射をどのように受けたのか、注意すべきだ。危険をもたらした組織が、責任を負うべきだ。軍事であっても、民生であっても。

チェルノブイリ被災者社会保障法制定の成功について話そう。この法は、現在のロシア政府によって、執行されていない。1991年に制定されたものである。それは事故から5年後だった。1992年に改訂された。23回の改訂が行われ、現在は複雑な法律になった。この法を適応させようとする、100以上の追加条項が必要になった。頻繁で大きな法改正が、矛盾した国の様子を示している。段階的な変更戦略がなかったのだ。

今でも、1996年からの裁判は継続している。政府について憲法違反の判決も出されている。世界基準としての方を作る際、各方面の専門家の意見を聞くこと、科学、医学に関しては専門家の責任を問い、自分の子どもに関わることを忘れてはならない。

\*\*\*\*\*

ヴドヴィチェンコ (チェルノブイリ)

自分と自分の家族の人生について語りたい。

9歳の時に事故が起こった。父は専門学校の教師であった。15秒程度のニュースがあった。数週間後に、情報が出てきた。ソ連にとっては苦しい時代だった。学校の生徒と教師はNGOを作った。高齢者と子どもたちを支援してきた。障がい児がたくさんいることがわかった。まず最初、リハビリテーションセンターを作った。小児ポリオの子どもたちがターゲットだった。今は、毎年500人の子どもたちが汚染地帯だけでなく各地から集まってくる。

二つの医療プログラムがある。リハビリセンターと、甲状腺の検査。医療設備がないところがあるので、GEから医療機器を入れて、整備して行った。

10年前に生まれた子どもたちですら、甲状腺がんを発症している。更に、皮膚がんが増えているとのこと。私の友人・家族には、教師が多い。子どもたちのために働きたい。子どもたちにとっては、汚染地帯から抜け出すことが大事。そこで、サマーキャンプを企画している。

子どもたちに知っていることを活かし、オーストラリアなどの経験を活かし、プログラムを作っている。何をすれば安心・安全かを指導している。そこで生きる方法を教えている。

彼らが、原子力を使わないように働きかけてくれると、そう期待して、夏のキャンプをして教育を行っている。

<ここで貧血を起こし、アントン氏は休憩に入る>

\*\*\*\*\*

【質疑応答】

ヴェリキンさん

ロシアの法律の問題がある。その他に新しい問題がある。何が起きても、法律は被災者を守らねばならない。この点は、一致していた。事故処理について、試行錯誤があった。それを活用してほしい。ミスへの代償は、私たちの体で払った。IAEAはそのことに学ばなかった。そのことは、大きな間違いだ。同じミスが、今、起こされている。

この問題について、ロシアの国民がどう思っているか。どの国でも、予算がある。その範囲の中に収めようとする。それでも、国に社会保障を払わせること。それが私たちの役割だ。

私は8千回の裁判に出た。二回、憲法裁判に出た。そこには法があった。福島の子は、どうやって戦うのか。

日本人 (フクシマ)

福島で被災し、大阪に避難している。福島県に、夫は残っている。日本では、母子避難がある。4年半以上それが続いている。放射線の被害については説明を省くが、子どもが為に避難している。

事故後5年後にできた法律で、ロシアは守られている。日本では、「子ども被災者支援法」があるけれど、骨抜き。救われている人はいない。だから私は、違憲訴訟を起こしている。放射線被曝から免れて健康を享受する権利だと。生存権・前文に頼る。

\*\*\*\*\*



長谷川 (飯館)

事故当時、地区長をしていた。8人家族四世代同居だった。今はばらばら。

これから避難も解除されて行く。あれほど汚染されたところへ帰って、何ができるというのか。

あの事故の当時から、カメラとビデオカメラをもって、記録を続けている。日本ではとんでもないことが起きたな、と、そういう強い思いを持ったので、後世に届けようと思った。

原発から30キロ以上離れていたから、原発の恩典は何もなかった。放射能だけが、やってきた。三号機爆発の時、雪が降っていた。SPEEDIが危険を知らせた。それは隠された。

それで無用の被ばくをした。

県から、不安な人は避難を、と言われた。全国の大学の著名な先生が来て、村民を集めて、「安全説法」をされた。避難した人まで、戻ってきた。

危ないという先生も現れる。村長に進言するも、拒否される。村長は「故郷を守る」と言って譲らない。避難区域に設定されても、動こうとしなかった。日本全国から受け入れの声を頂いた。でも、村はそれを断った。車で一時間圏内に避難させると決定した。村を再興させる、と。健康はどこかに行ってしまった。

牛は殺処分となり、友人は自死した。

今、仮設住宅に、両親と妻と4人暮らしをしている。チェルノブイリでも対岸の火事だった。「絶対に事故は起こらない」と言い続けていた。だから、事故後に、自衛隊が、モデル事業で、除染を始めた。

モニタリングポストの移動の話は有名だ。「県民健康管理調査\_外部線量推計結果」を見ると、自分たちが突出して被ばくしたことがわかっている。初期被ばく5ミリSv以上の8割が飯館だ。ADRに持ち込んだが、まだ何も結果が出ていない。

飯館村の汚染状況について説明しよう。2013年から2014年へ、キノコの線量は高まっていたりする。

孫が二人生まれて、「指が5本あって、ああよかった」と。そういう日々を送っている。

\*\*\*\*\*

井戸川 (双葉町)

今日、チェルノブイリ法を作られた苦勞を知った。その法があったことが良かったと聞いて、ご勞が実ったのだろうと。

保養の習慣があったこともよかったのかもしれない。核の被害は、地球がひっくり返るほどのもの。フクシマは、三度目。もう終わりにしないと。費用対効果から、核は無理だと思う。

保養について、私たちは多く学ばねばならないと思う。保養すらさせてあげられない私たち。子どもたちになんというのか。自分たちは経済の犠牲者ですと、子どもが作文している。大人として悲しい。

細野氏は大臣のとき、すべて除染すると言った。でも、専門家会議を開いて、山は除染しないと言い出す。約束はどうなったかと聞かれたら、「まだ、決定してません」と。その言葉は今でも生きているはずだ。

避難区域について。班目委員長は来なかった。事務局長が来て、「菅総理が(勝手に)決めた」と語った。

\*\*\*\*\*

アントン (チェルノブイリ)

30人の組織で支援活動をしている。組織は家族で作った。2000人くらいは対応している。医療も、社会保障も大事。でも、放射能についての知識が、子どもたちに大事。ここ皆が集まって、目標を一つにしている。それを嬉しく思っている。

\*\*\*\*\*

**【質疑応答】**

アルアリ (イラク)

ベクレルでのバックグラウンドについてわかるか

長谷川 (飯館)

ベクレルはとても高く出るので、国からは出さない。自分で踏ったところ、50万ベクレルが、自分の敷地で確認された。

アルアリ (イラク)

キノコは、蓄積しやすいのだろう。土壌が非常に汚染されている。

長谷川

国にはできないことが多いのだろう。山と暮らしてきた私たち。少くく大丈夫と、食べてしまっている人がいる。内部被ばくが心配だ。

川上

海への流出はどうなっているか。海外の人々へのお詫びの思いを込めて、分かっていることを知らせてほしい。

湯浅

自治体が測っているデータを見ている。状況が一年後でも変わっていない。南側に向けた100キロ圏内に流れている。茨木・福島の県境に流れて、下に沈んでゆくと考えられている。半分くらいは、茨木へ行くのだろう。残りの一部分は、アメリカへ行っているだろう。汚染水が相当出ている。その放出量は、陸に振ったものが、雨に溶けて、川に経由して海へ。

原発の北側の浪江から飯館へ。受け渡川、など、小さな河川に流れて、海へ流れている。

基本的な構図は、事故があった年の半年から一年くらいと、あまり変わらないはずだ。海の水は、濃度が薄くなる。事故以前と比べれば、1立方メートル当たり、1から2Bq程度と考えている。それでも、今、事故前と比べて数倍程度となっている。

アメリカから

フクシマを車で回った。再稼働を止めなければならない。どうしたらできるのだろうか。福島の人々は反対であった。長崎では、再稼働に賛成だと言っていた。

選挙で解決するとは思わない。でも、安倍政権を止めなければ。解決策が欲しい。

ヴェリキン

それは、日本国民と日本政府の問題だ。

長谷川

数の横暴がひどい。与野党拮抗を作り出さないといけない。

中国の報告で、肺がんのことがあった。小学四年生の孫が喘息で入院した。妻も喘息になった。「うちの娘はいいほうだ。たくさんの子どもたちが喘息でひどい状態で入院している」と、妻は言った。

小児甲状腺癌も増加している。

米国から

アカウンタビリティは、企業に求められないのか。

長谷川

国は、企業に任せている。再稼働を国は率先して進めようとしている。日本では、事故の当事者は逮捕されていない。被害者が、悪いことをしているような感じになってきている。仮設住宅でも、引きこもるようになってきている。「避難者だ」ということで後ろ指を指されるような。

エリザベス (英国)

ヴェリキンさんへ。

外交史の中で学んだことです。何人が死亡したのか、等、チェルノブイリの情報が開示されていないようです。調査は進んでいるのでしょうか。何十万人、100万人、という統計もありました。

ヴェリキン

仲間も死にました。癌が放射線によって発症したのは、15年後だったりしている。

癌の死亡数が増えている。普通の病気をものすごい数の人が患っている。発症率が高すぎるのです。

サンクトペテルブルグで、91年に、白血病、45000人に。今は、3000人です。

アントン

チェルノブイリ一体の医師は、当局から、「死因を正しく書くな」と言われているようです。公式と非公式の二つの統計があるのです。

\*\*\*\*\*

【核廃棄物利用・劣化ウラン弾】

伴英幸（日本）

放射性廃棄物は利用できないし、してはならないと、話します。

核燃料サイクル全般において廃棄物ができる。再処理工場からは問題が起こってきている。まだ日本では再処理工場が本格稼働していないのと、人口が少ない地域に立地しているので、実際の疫学的な状況が良く分からない。

ウランは、鉛になって行く。1トンのウランで、劣化ウランは6トンできる。その使い道がない。廃棄物が増える。それをかつては航空機のバルンサーで使ってきた。しかし日航機のジャンボ機墜落で、今は、使われていない。

発電の際、ウランは、8桁、放射能が強くなる。数万年かけて、やっと元に戻ってくる。安全に隔離する技術はない。

ICRP では癌の発症率増加において放射能の値に閾値はないとしている。だから、電気の恩恵との比較考量となっている。事故時には30  $\mu$  Sv 毎年でよしとしよう、とする動きもある。

電気をいま享受して、放射線被曝だけを将来世代に先送りすることは、倫理的大問題である。それを政府の委員会でも言い続けている。全く聞いてもらえないけれど言い続けている。

かつて日本では、人形峠でウランを採掘した。その残滓は、どうしてよいか決まっていなかった。煉瓦にして売りつけた、という話も残されている。

もう、やめなければならない。そのための方法はまだわからない。再生可能エネルギーがカギになるのではないか。

裁判で再稼働を止める、など、あらゆる抵抗をして行くしかない。

\*\*\*\*\*

アルアリ（イラク）

イラクにおける劣化ウラン弾の被害状況を、イギリスの内科医の協会の会員であり、イラクのがん研究のグループの一員として、話す。

20世紀末に使用された劣化ウラン弾を、21世紀、米国は住宅地に使用した。バスラの汚染が激しい。劣化ウランが地中から見つかって、測定した結果、三ヶタの Bq/kg が見つかる。癌の潜伏期間は10年ほど。神経・筋・腎臓など、原因がはっきりしない病気、そして出産に関わる場合、その被害者となる。

尿を検査して、劣化ウランの陽性、となった、骨の癌の子どもの写真を見てほしい。腎臓、乳がんなど、家族で癌が多発する。これは戦争前にはなかった。

支援が必要である。

\*\*\*\*\*

カリーム（バスラ）

石油の豊かなイラクの南部・バスラは、インフラがゼロである。劣化ウラン弾の影響を受けている。汚染はひどい。癌の発症が非常に増えている。400～500人だったのが、2500人くらいの患者になっている。

白血病と乳がんが多い。大人の50パーセントが癌になっている。その他にも、リンパ球などに異常が出ている。医療に関わる全てが不足している。

\*\*\*\*\*

【質疑応答】

劣化ウランの害はないということが WHO から出てきているが、どうか。

アルアリ

WHO の調査から、私たちは排除された。調査する人々の一部は、医師ですらない。これは汚職の表れである。何故私たちが自分たちで調査をしないのか。ファルージャの調査も、そうだった。ICPR の場でも言及したが、データが正しくない。他の汚染も、バスラ大学で調べているけれど、情報を分けてくれない。劣化ウランではなく、水銀、鉛、などの説が出されている。

豊田 (日本)

国際調査が信用できないという爆弾発言であった。日本の経験から、それは本当だと思われている。

ベトーチ (米国)

科学者に何ができるのか。考えると、残念だ。数学者の一人が自分に言ったことを思い出す。「この爆弾は地下を破壊するものだ」と。しかしそれで、子どもが殺されている。私はそれを見て、「これは犯罪である。有罪だ」と、そう言った。

アルアリ

科学者で、公式に調査に来たことになっている人を、私は、現場で見たことがない。

嘉指 (日本)

現場での印象は、医者の中でいろいろな解釈があったということ。第一回国際癌学会がバスラで行われた。それは、現場の医師の思いの結果だったと。バスラの医師の中で、劣化ウランがらみの問題について、最近、どんな印象を持っているだろうか。

アルアリ

2009年の国際会議について、私は腹が立って、席を立った。大学人や医師たちが調査をしなければならないと言ったのに、その価値を認めない。ある日突然データを取り出して、大学に送って、それで博士号をとろうと、そんな程度の研究ばかりだ。

辛抱強く、自分で調査しなければと思っている。BCRG というグループがある。

26人程度の医師が入っている。私たちはそこに責任者として入っている。そういう研究を考えている。

松井 (日本)

アルアリさんへ。今のイラクの状況、フクシマもそうだけれど、WHO が本格的に調査に乗り出していない。IAEA が発足した時、WHO との間に協定ができて、核の問題は両者の協議が必要、とした。この問題について、意見を伺いたい。

アルアリ

WHO や IAEA は権力に支配されている。多くの人々が、解雇されている。これこそが問題だ。ご存じだと思う。

シュリプラカッシュ (インド)

インドでは、20年来の活動が続いている。それまでは、政府の調査の結果が開示されなかった。対抗研究が始められた。この会議からも、プラバガンダにどう対応するかを話し合わねばならないと思う。

アルアリ

加えて、予算という問題を考えなければならない。何千ドルという調査費用が必要なのだ。予算を確保して行くことが、重要だ。

\*\*\*\*\*

【セッション振り返り】

核サイクル被害現場からの報告：

中流社会は、新自由主義社会を目指している。その国家政策として、原子力と核開発は最優先課題となっている。それは聖なる土地・祖先に対する責任感を持つ先住民族の考え方と、大きく異なっている。

母なる大地を掘り起こしウランが取り出され、核廃棄物が先住民族の権利を侵害している。先住民族の価値観は多種多様である。しかし、祖先（遺伝子）と水源に対する責任を負っている点は、中流社会・植民地社会との違いとして、先住民族に共通していることを強調したい。

一世代の人生のレベルではなく、何世代もつながる責任を、我々は負っている。核被害を考える時、地球全ての生命への大いなる責任を教え

ている先住民の思想は重要である。このことを、今後の活動に取り入れたい。

#### 核実験（竹峰）：

「被害者になる、被曝者になる」ことの大切さとその尊さについて学んだ。日本では、被曝者であることが後ろ向きであると、そう思われる。復興が語られる現実がそこにある。

但し、核被害を被害で終わらせてはいけない。被害を前に沈黙するのではなく、被害者となり、息抜き、語ること。声を挙げられない人を忘れないこと。これが重要である。

#### 原爆被曝者

被曝者は、外国人・植民地の人々など、世界中に広がっている。更に、「黒い雨」に象徴される二次被害を受けた人々がいる。この人々は差別されている。被曝したかどうかの証人を探すことも、被曝者に求められている。

戦争は市民がしたのではない。国が行った。原発もそうだった。ウラン鉱山開発も、国によって翻弄された結果である。そうした事柄を、連帯して国に訴えていくべきだ。

被曝者団体は、諸団体があり、まとめることが難しい。米国にも3つある。連携が必要である。

#### 原発事故・原発労働

汚染物質の広がり、東京都まで広がっていることがわかっている。放射線管理区域に相当する区域で、多くの人々が生活している。その背景には ICRP と WHO の体制がある。広範囲の問題を追究するべきだ。

被害「者」と言っているが、人間だけを考えていてよいだろうか。生態系全体を視野に入れてほしい。

海は、世界の三大漁業場の一つが汚染された。「惑星海流」というべき一部が、黒潮と親潮のぶつかる場所に、膨大な放射能が放出された。そのことに対する罪の意識が日本政府にない。そのことを告発するネットワークが必要だ。

#### 核廃物利用・劣化ウラン兵器

まだ出会っていない被ばく者がいるのだろう。除染という作業のために、数万の人々が働いている。海から800メートルの津波被災地で、家屋の被害がゼロだった。それは、祖先の言い伝えを守った結果だった。この姿勢に学びたい。

#### 被曝の科学

広島・長崎の被曝者で、癌がどんどん増えている。入市被曝の影響が、白血病の増加に見られる。今後の科学者の役割として、資金的・政治的に研究がしにくくなっている。支援体制が必要だ。

被害者目線の研究が進められねばならない。

100 mSv 以下の被曝についてのエビデンスが証明されつつあることに注目しなければならない。

#### 反 核燃料利用キャンペーン

再稼働が続く中で、諦めない・つながる・一人一人考える、がキーワードとなる。水俣病は会社から逮捕者が出た。しかし、放射能は公害から除く、とされていたために、原発事故は水俣病と同じ経緯をたどらない。

この問題は、2012年に法が改正されて前進した。今、刑事責任を追及することが大事となる。

インドでは、CIAのような組織が動員されて核開発が続いている。日豪・印原子力協定のことも留意しなければならない。

7世代先のことを考えるという米国先住民の視点に学ぶ必要がある。

#### 特別セッション（小出氏講演）

ヒロシマ・ナガサキだけが被ばく地ではない。核実験の事実がある。ブラボー水爆は、ヒロシマ型の1000倍の威力だった。

核実験によって世界中の人が被ばくしている。世界中に降り注いだ放射能の量は、ヒロシマ・ナガサキの放射能の量を Cs137 で示すなら、0.

0.89ペタ Bq。同じ Cs で見て、大気圏核実験だけで、全世界の964ペタ Bqである。つまり、1万倍の量が降り注いだ。

セラフィールド（ウィンズスケール）の原発事故で、41ペタ Bq が海流に放出されている。現在も緊急事態宣言の中にフクシマの事故は推移している。

以上の講演に対して、三人が発言した。

インドの核兵器反対運動の立場から、放射能の影響が否定された上で、核開発が進むインドのこと、様々な被曝経験をしていることを共有してほしいこと、広島は軍都であったことを思い出すべきことが、語られた。

\*\*\*\*\*

#### 【質疑応答】

##### 平野伸人：

被曝者に優生保護法を適応すると、都議会議員選挙で語られたことがある。遺伝的影響は、現在は認められないが、私は、「ある」と思っている。

次世代への影響について論議を進めてほしい。

「唯一の戦争被爆国民」という言葉を阿部首相が使っている。私たちはこれに抗議した。それは間違いだと思う。世界中に、まだ見えない被曝者がいる。

科学者の立場から、遺伝的影響についての見解を聞きたい。

##### 振津かつみ

被曝二世との出会いの中で、遺伝学を勉強している。

「遺伝的影響なんて当たり前」という人もいるだろうが、改めて整理して語らなければならない現実がある。

哺乳類であるネズミも含めて、影響は実証されている。癌であったり、がん以外の病気も含めて、動物実験において、放射能の遺伝的影響があることの結論は出ている。ただし、原爆の被曝者を含め、人間についての実証は、まだなされていない。人体実験ができない以上、科学的データが得られないのだ。

科学者の役割を考える時、証明できていないから施策を控えるというのは、科学的に誤りである。「影響は有る」という可能性を前提に、対応がなされるべきだ。

##### 松井英介：

遺伝の問題について研究してきたわけではないが、一つだけ紹介したいことがある。人に対する遺伝的影響については、1957年、WHOの報告書が出ている。しかしそれにアクセスしにくい。IAEAとの協定が影響しているのだろう。これを共有することが必要だと思う。

バックグラウンドの全ての核種について、調査が必要だ。それは膨大な研究になるだろう。

##### 朝永：

証明は完全になされていないが、2700の遺伝子を解析する技術がこの数年に開発された。これで、被ばく者の親と子の間でペアを作って比較することが可能になっている。

それが大事だと思う。

マーシャル諸島の被曝の漁船員の中で、歯の中から放射能が検出される、といった、はっきりした証拠が必要となる。科学者の役割が非常に必要だ。意志を持って研究する人が必要だ。

##### 鎌田：

原爆による被ばく者の子孫に遺伝的影響があるかどうかを考える時、初期放射線が3分の1、残留放射線が3分の2、という現実があることが重要になる。

ICRPは、前者のみを見ている。そして、後者については、個人への線量付与を推定することが難しい、とされている。

初期放射線は症例も少なく、そして結果がネガティブであった。残りを調べてみれば、影響が見出されるのは当然だろう。

証拠が出ないから、影響がない、と言ってしまっているのか、が、今、問われている。

##### ラフ：

どの生物体系にも、子孫に及ぶ放射能の影響がある。それが病気という形で発現する。よって、これは、世代を超えた被害があることは明らかだ。しかし、人間においては、病気においてどう出るのが解明されていない。

示唆的なデータはある。これは、英国の原発の付近の子どもの白血病発症率において、少し前に、興味深い研究結果が出ている。10年前の米国の権威ある研究紀要の7号に、「世代を超えた影響がない、と期待する理由は、まったくない」と明記された。他の動物における影響から、

そうだと。

自然界に存在する放射能にはばらつきがある。それと、動物の種の遺伝子の変異の因果関係は、あるとされている。人間の中にも遺伝子の損傷があると認識するのが正しい。病気にどう表れるかが、まだわかっていないだけだ。

木原：

二世の運動を担ってきた者として語る。遺伝的影響があるかもわからない。無ければラッキーだ。

「その日以後」という写真集が、韓国で出た。被爆二世の写真集であった。そこに、体の半分に黒い毛が生えた写真があった。これは間違いだろう。

日本の中学校の教科書で、公民的分野があるが、文科省の検定を通ったもので、「原爆被爆者を親に持ち、自らも原爆症に苦しんでいる人を、被爆二世という」と書いてあった。これは、間違いだと思い、問い合わせた。学校図書という出版社であった。その際は、「どこが間違えていますか」という反応だった。

これらは、二つの面から見た、一つの出来事だと思う。

姜濟淑（韓国）：

韓国での被爆二世の写真集について言及があったので、発言する。

犠牲者に会うと、子どもを産んですぐなくなる女性が多くいると知らされる。一世の親にとっては、子どもに障害があれば、問題だと言いたがる。障がいがないければ、隠したがる。日本では、隠した。それを外に表現しなかった。

この問題を語る際には、被害者の立場に考えなければならない。科学的な証拠を出すことよりも、犠牲者の持っている障がいの時間の短さを考えてほしい。日本の二世の会も増えている。連帯してほしい。

\*\*\*\*\*

司会：原発について質問を受けます。

原発いらん山口ネットワーク あがりさん：

原発のことを考えている。核兵器のことばかり言及されることに苛立っていた。ここで救われた。核ロビーは組織されているという。私たちも組織化されることが必要だと思う。小出氏の講演で、核のエネルギーからは100万倍のエネルギーを受ける、と聞いた。暴れ馬を扱うように思った。

日本には原発が54基もある。扱う覚悟もなく、私たちはそれを使っている。

二つだけ希望を見つけた。オーストリア憲法に核を使わないという条文があること。デンマークでは3年かけて核を使わないと結論付けたこと。

上関原発を考えていた中で気づいたことは、「核のエネルギーを使う」という意識は全くなく、水力などと同じ審査で立地が決まってきた。一番問題なのは、地質が審査されなかった。1974年に交付金を出すことに決まった結果、安易な決定に流れたのだ。

東京労働安全センター 飯田：

被爆労働問題について取り組みを続けてきた。現地での除染・相談活動も続けてきた。大量の被爆労働者が産み出されてきた。使い捨てにされる人々の権利を守りたい。政府は、放射線による健康障害を労災として認定した事例を14例しか認めてこなかった。重層的な搾取構造が労働者を追い詰めている。

被爆を余儀なくされている人びとと連帯したい。

原発メーカー訴訟の会 崔：

世界で初めて、原発メーカーに責任があると訴えている。世界39か国から4000名が参加している。22名の弁護士と共に、東京で訴訟を始めた。50名の本人訴訟団で進めている。

中澤綾子さん

征服向上委員会のバックダンサーの格好で話す。

東日本からの避難者は、西日本産の食品を選んで食べている。バンダチェフスキー氏やカルディコット氏やブラコフ氏など、Svでは内部被ばくが単位として役に立たないとしている。Bqでなければならないと。内部被ばくを避けるために食べ物をどうすればいいか。科学者の意見を聞きたい。

松井：

食品の選び方について。今一番問題となっているのは、日本の食品の「許容限度」という基準。Cs137について決めている。その数値が、国際的にどうなのか。更に、ストロンチウム90の基準値を定めていない。特に乳製品や粉ミルクの基準が危険だ。

世界中で、核実験を受けて、調査が進んでいる。赤ちゃんの歯に St 90 の差があることはわかっている。それで、自分たちの「乳歯プロジェクト」を進めている。ミルクも調べようとしている。

今中：

事故の責任はどこにあるか。役人の責任を問いたい。政治家と企業より、力が強い。そこに責任を取らせるシステムがない。役人に個人的なシステムを作らないといけない。

研究者としては、「はっきり言えること」を増やす役割を負う。「よくわからない」ということがたくさんある。「100 mSv で影響が観察されていない」というのは、ある意味で「はっきり言えること」である。でもそれを政治家が「だから安全だ。影響がない」と言い換えている。ヒロシマ・ナガサキのおおざっぱなデータに基づいての結論が、違う意味で流通している。そして最近のデータはそれを覆している。「不勉強な先生」だけが、そうしたことをまだ言っている、ということを強調しておきたい。

\*\*\*\*\*

【核兵器禁止キャンペーンについて】

自由と平和のための女性リーグ：

アジア女性の問題で参加している。スコットランドから来た。法的・道義的・政治的・非暴力的・直接的プレッシャーを英国政府に与えてきたことをお伝えしたい。

スコットランドは独立したい。スコットランドに核兵器はいらない。そうした意見に反して、英国政府は、核政策をスコットランドに押し付けている。

それで、私たちはマーシャル諸島の裁判に支持を表明するなど抵抗を示している。核兵器が他国に照準を合わせていることにも、私たちは反対している。

スコットランドはジェンダーバランスに意を払い、その結果、核政策に違う意見を反映させている。

広島カトリック司教区 栗栖：

運動を世界に届けたい。各国首脳、役人を変えたい。国連で原爆展をしてきた。核はいけないと、皆さんに気づいてほしい。

反核医師の会 原：

核戦争を防止したい。NPT 再検討会議が合意に至らなかったが、核兵器禁止条約の交渉開始の動きは止められないだろう。核兵器保有国を巻き込むために、市民社会の役割が求められている。飛躍的な運動のレベルアップが求められている。

モア (ジュネーブ)：

官僚を相手にどう闘うか、一つの可能性を提起したい。情報開示法を人権の問題解決のために活用すべきだ。これで政策を変えることができる。核兵器の近代化を図った英国政府は、私たちがこの法律を活用した結果、その計画を放棄せざるを得なくなった。手元にある道具をチェックし、情報を共有し、前に進むべきだ。

100万人の署名を集めることは難しいかもしれない。でも、手元にある道具を使いましょう。

川崎 (ピースボート)：

オーストラリアでは、情報公開法を使って、核を巡る政府内の議論を明らかにした。それが報道されて、運動が進んだ。日本でもそうした制度はある。でも活動は不十分だ。

核保有国を巻き込むことも重要だ。しかし、核の傘の元にある政府を見ていると、「何もしない」ことの言い訳として「核保有国を巻き込む」ということが言われたりもする。「仮に核保有国が参加しなくても、物事を進める」ということで、初めて議論は進む、ということがこの間の進展だ。結局、市民運動が、そして被ばく地の声がまずあって、それから、全体が進むと思う。

オーストラリアから：

川崎氏への応答をしたい。

政府の偽善を明らかにするためには、情報公開が有効だった。核兵器廃止を阻止することは恥ずべきことだと、そのことを当事者に知らせなければならない。

【具体的な市民レベルでの活動について】

原発災害避難者の会：



サンクス・アンド・ドリームという団体を作って活動している。原子力災害の影響下にある若い学生たちに、避難をして生きていく権利があることを伝えている。

\*\*\*\*\*

劣化ウラン弾の被害者支援の立場 JIM ネット 佐藤さん:

復興作業に入る PKO や NGO が、被ばくしている。

中東でも、原発を入れようとしている。

沢田:

これまで、放射性降下物の被爆影響が不十分だった。集団訴訟においても、政府の理解は足りない。世界中の核実験の被害においても、降下物の影響が重大な問題である。

原爆が爆発すると、原子雲の雨粒の中心に、核物質がある。それが黒い雨になる。残りは、1万メートルあたりで、横に広がる。投下1時間程度後の原爆のスケッチが出ているが、そこにも実証されている。その広がり後に降下するものが、微粒子であるので、内部被ばくを引き起こすという原理である。

この内部被ばくについては、急性症状（紫斑など）の発症率をもとにして、科学的に影響を測定できる。その測定と、土壌計測の結果を比較すると、全く違う数字が出てくる。その論文を英語で書いたので、読んでいただきたいと思っている。

\*\*\*\*\*

川上

アレキサンダー・ヴェリキン氏が語った言葉は強い印象を残した。「事故処理について、試行錯誤があった。それを活用してほしい。自分たちの犯したミスについて、その代償を、私たちは自分の体で払った。その経験を活かさない IAEA は間違えている。同じミスが、今、フクシマで起こされている。」

アニワル・トフティ氏がしているのと同じように、日本の発症数をインターネットで調べることができる。すると、急性白血病の日本全国における医療機関診療実績は、2010年と2014年対比で、福島で213%増、東京で132%増、大阪で187%増、北海道で185%増、となっている。

福島のみならず、東京や大阪、北海道の増加をどう考えるか。劣化ウラン弾による土壌汚染の2ケタ以上高い超 - 土壌汚染が福島県内に無数に確認されている。福島原発から放出された Cs134 はチェルノブイリの3倍であり、Pt241 は広島原爆の約7万倍であることが、分かっている。つまり、私たちは、福島事故において、「重大な過小評価を含む混乱した状態」にあるのではないか。この混乱を解決するために、イラクや新疆、風下地域やウラン鉱山での現在分かっている数値や事態を一覧表として整理するチームを作ることを提案する。そうすることで、「不都合な真実」を、犠牲者が、世界に訴えることができると考えてのことである。

[goo.gl/f2fyhk](http://goo.gl/f2fyhk)

上記アドレスに、世界の被曝地の情報を寄せてほしい。皆さまのお力をお借りして、を参照して、私たちは少しでも犠牲者を減らしたいと思っている。

\*\*\*\*\*

【補遺：帰路のタクシーでの会話】

川上：仙台から来た。東京電力福島原発事故の被災者支援をしている。私たちはこれからどうなるかヒロシマ・ナガサキの皆様によくを学ばなければならない。被ばくしたという現実、いよいよ現実のものとして私たちに迫ってくるだろう。

運転手氏：自分は被爆3世である。このことを、20代の頃は、隠していた。最近になってようやく、そうしたことを公にしてもいいのではないかと感じている。いろいろな意見がある。ただ、福山雅治氏が、自身が被曝者の子孫であることを公にしたことは、大きなインパクトをもたらした。

みんな、皆さんの味方です。大丈夫。かならず、皆さんの側に、私たちはいますよ。